

(3) 題材

本実践は、浜松市立... 教諭によるものです。

1) 題材名 身近な消費生活と環境

2) 題材目標

- ・自分の家族の消費生活について関心をもち、消費のあり方を自分の生活を振り返りながら、改善しようとするができる。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- ・家庭生活と消費について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫した商品選択をすることができる。
(生活を工夫し創造する能力)
- ・物資やサービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付け、実際の商品購入に生かすことができる。
(生活の技能)
- ・生活に必要なものの流れについて理解し、持続可能な消費行動の知識を身に付けることができる。
(生活や技術についての知識・理解)

3) 題材について

わたしたちの家庭生活は様々な物資・サービスを選択し、購入することによって成り立っている。生徒たちにとっても日常的な生活活動であり、これは生涯にわたって行われる行為である。

子供たちを取り巻く生活環境はグローバル化や情報化の急激な進展などにより、大きく変化している。物質的には豊かで便利な生活を送っている一方、その便利さの陰で、大量生産・大量消費・大量廃棄に伴う様々な環境問題が生じてきている。この、生産・消費・廃棄に関する社会問題や環境問題は、国際レベルでの協力が必要な大きな問題である。今後、グローバル社会を生きていく子供たちには、社会を見る視点を、地域や国内だけでなく、世界を視野にいれることが必要となる。また、公正で持続可能な社会を築くためにも、日々の消費行動を自分の損得だけでなく、消費行動の責任を意識することが求められる。

さらに、平成24年に制定された「消費者教育の推進に関する法律」では、消費者は保護されるべき受け身の存在から自立し、その責任を自覚して、他者や世界の未来も考慮した消費活動を行う「消費者市民」へと転換することが示されている。中学生においても、消費者としての基本的な権利と責任について正しく理解し、消費者としての意識を高め、問題意識をもって、社会に参画していく力を身に付けることが求められている。

中学生の消費行動をみると、自己の欲求を満たすかどうか、価値があるかどうかという判断基準はもっているが、自分の消費行動が社会や環境、未来の生活を左右することにまでは意識が及んでいない。このため、本題材において、消費者の一員であることに自覚をもち、未来の生活を視野に入れ、環境や社会問題にも配慮した消費活動を行う力を養いたいと考えた。

本時では、身近な消費行動である昼食の選択を通じて、自分の消費行動が社会や環境とつながっていることを具体的にとらえさせ、生活全般にわたって自らの消費行動を見直させたいと考えている。そこで、生徒が興味・関心をもち、日々の生活において繰り返し行っている身近な選択行動である「食」の選択を取り上げることにした。

「食」の選択に関して、生徒の多くは、安さ、手軽さ、値段を重視している傾向がある。表示を確認することなく、空腹が満たされればよいと考え、自分の好みに応じた安易な選択をしている様子が見受けられる。このため、B分野の学習において、栄養・調理技術だけでなく、フェアトレード、輸入食品と国産食品の比較、飲み物の糖分（ペットボトル症候群）、添加物、食品ロス（フードバンク）などについて学び、自分の食生活が自分自身の健康だけでなく、環境や社会にも影響を与えていることに気付かせる学習を行っている。

この教材を使った授業を通じて、生徒が自分の価値観を見直し、生活者として、未来の環境や公正な社会の実現を目指した商品選択や消費行動を考える力を養いたいと考えている。身近な食に関わる消費活動についての関心を高めた上で、商品情報の読み取りや契約、消費活動に関する様々な問題や制度の学習につなげ、よりよい消費者の育成を目指していきたい。

(4)身に付ける力

家庭科学習を通じて、まず、生徒に身に付けさせたい力としてあげられることは、生活を楽しみ、家族や環境を大切に、常に生活をより良くしようとする実践的な態度である。そのためには、生徒が真剣に楽しみながら学ぶ授業を創ることが大切になってくる。

1)はままつの教育 未来創造への人づくり

浜松市では、授業を通じて目指す子供の姿が下記のように示されている。

- 夢と希望をもち続ける子供
- これからの社会を生き抜くための能力を育む子供
- 自分らしさを大切にする子供

変化の激しい時代を生き抜くために、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていける資質・能力を育むことや、「ひと・もの・こと」との関わりの中で自分を見つめ育まれていくものと示されている。また、目指す子供の姿を実現するために4つの視点「自分をみつめる」「創造」「協働」「自立」が示されている。

家庭科の授業において、この4つの視点は重要なものであり、お互いの違いを認め合いながらより良く、公正な社会を目指す消費者市民の育成とも重なるものである。家庭科は日常の生活、衣食住の基礎・基本を実習を通じて学んでいく。生活は、「ひと・もの・こと」の中にある。衣食住の学習において、意図的に「ひと・もの・こと」との出会いを授業に組み込むことで、自分の今までを振り返り、生活文化を見直す機会をもち、地域・人・歴史とつなげる学習活動を行いたいと考えている。衣食住に関する知識と技術は、社会の変化とともに形を変えながら受け継がれている。そこで、実感を伴って理解を進めるために地元の「ひと・もの・こと」を取り上げ、ゲストティーチャーとの出会いや実物にふれ、味わうことなど五感を刺激する体験を通じて、大切な文化であるという思いをもちながら、知識や技術を学び、文化を受け継ぎ、発展させていくことが期待される。

2) 中学校技術・家庭科<家庭分野>における協働学習・・・社会参画していく力を目指して

家庭科では、限られた条件の中で最も良いと考えられることを選択し、知識・技術を活用して意思決定をしていく学びがある。よりよい選択を目指して、生徒は、活発な意見交換を行うことができる。お互いの意見から参考になることを取り込み、新たな気づきを得て、よりよい生活・社会を目指していく学びができる。身に付けた知識・技能を活用して生活上の課題を解決する能力を育み、他者と共存を図りながら変化に対応する能力を育成していきたい。

子供は家庭科の授業を通じて、自分や家族の生活における考えや行動を振り返る。そこで新たな知識や技術を学び、友人との協働学習を経て、より確かな深い理解をし、自分の生活をより良くしていこうとし、子供が家族に学びを伝え、衣食住・消費・環境について考えるきっかけを与える。子供がよりよい社会をつくる一員となると同時に家族の生活の在り方にも関わってくることになる。また、生活者を育てるということは生き方指導、道徳にもつながる。よりよい社会をつくる一員である消費者市民となるよう、様々な気づきを授業に組み込んでいきたい。

家庭科学習においては、全学習を通じて持続可能な社会の形成者となることが求められており、社会に参画していく力の育成が欠かせない。場の雰囲気や和ませ、学習者の知識・経験・個性・能力を引き出し、意見交流・相互理解を通じて新しい発見をさせる経験を重ねて社会に参画していく能力を育てていきたいと考えている。

① 目標

- ・自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切な商品の選択について考えることができる。
- ・持続可能な社会の必要性に気づき、環境に配慮した生活を考えることができる。
- ・よりよい社会の形成にむけて自ら発信し、参画していくことを考えることができる。

② 2時間の達成目標

- 1 自らの食の選択が、「社会」「環境」「経済」「安全性」に影響を与えることを理解する。
- 2 自らの食の選択が、食の安全を守り、環境を守り、公正な社会をつくることになるという、消費者の責任について気付くことができる。
- 3 よりよい社会の形成を目指す消費者市民として、今後の選択において社会に対する視点（公正な取引であるかどうか）や環境に対する視点をもつことができる。
- 4 自らの消費行動を見直し、今後の選択行動における考えをまとめることができる。
- 5 自らの意見を友人に伝え、友人の意見を知ることで自らの考えを深めることができる。

③ 発展学習

- ・よりよい社会の発展のために、何が必要か考えた内容を、消費生活センターを通じて商工会や事業者団体にむけて発信することができる。
- ・よりよい社会の形成のために、積極的に自ら関わり、考えを発信し行動していくことについて考えることができる。

(5) 指導計画

1) 中学校 技術・家庭科<家庭分野>の中での位置づけ

<3学年を想定した指導>

この教材は、消費を通じて自分の生活の改善だけでなく、社会の発展や改善、未来にむけて積極的に行動する消費者市民の育成を目指すものである。

この課題に取り組むのは、3学年を想定している。その理由として2つ挙げられる。一つ目は、衣食住の学習を通じて、何を選択するかによって、個人や家族の生活の質を変えていくことを理解していることが必要であること。二つ目が衣食住の学習を通じて、循環型社会の実現を目指した取り組みについて知り、理解していることである。

<生徒の視野を広げる学び>

家庭科学習が、自分と家族の生活から視野を世界にむけて大きく広げていく学びになっていく。

「衣食住」の日々の生活が、地球の裏側の人々の生死を分けるところまでつながっていることや、自分たちの大量生産・大量消費・大量廃棄がもたらしているアジア圏の環境汚染などの社会的な影響や環境面での影響について再度、触れる。そこで、改めて、社会的な視点・環境的な視点を2つ示し、ジグソー学習を通じて、それぞれが考えを持ち寄り、グループで一つの考えを組み立てていく作業を繰り返すことによって、知識を積み重ね、現状で最も良いと考えられるものを選択する力を身に付けさせたい。

また、「社会」「自然環境」の2つの視点を示すことで、自分と社会・世界、現在と未来のつながりを意識させていくことができる。自分の消費行動が自分の生活に関わるだけでなく、現在と未来の社会や経済情勢、地球環境に影響するものであることを自覚させることは、公正かつ、持続可能な社会の形成に寄与する行動をとることにつながっていく。よりよい社会の実現にむけて消費者の権利を意識し、消費者の責任を果たしながら、自分や家族のためだけでなく、社会のことを考えた選択を考え続ける生徒を育成していくことにつながると考えた。そのきっかけとなる授業づくりに役立つ教材にしたいと考えている。

この授業の後、商品購入のプロセス・消費者の権利と責任、消費生活のトラブル・消費者を支える法律と制度、消費者を支える機関、契約に伴う権利と義務の学習へつなげ、最終的には、批判的意識や社会に関心を持ち、消費者として適切な判断をし、社会参画をしていく姿勢を育みたい。

<1・2年生での衣食住の学習において、学習を充実させる手立て>

この消費生活分野の学習を充実させるには、1・2年生の衣食住の授業において、様々な立場の人々と連携・協働して授業を組み立て、生徒にとって能動的な学びとしていくことが効果的である。学校外の専門家や生産の現場の方が授業にゲストティーチャーとして加わることで、生徒が生き生きとしてくる。その準備・手順に関しては、研修会において講師の紹介を行い共有している。人との出会いを設定し、考えることに広がりをもたせていくことも社会参画につながっていく。また、総合学習との連携や他教科での学びと関連付けを図り効

果的に学習を組み立てていくことも有効である。学習形態においても、参加型学習を取り入れ、話し合いや活動を核にした授業を行うと、生徒同士の親近感が高まり、関係を深め、社会へ参画する能力を育むことにつながっていくと考えている。

2) 身近な消費生活と環境の指導計画

時	各時の目標	学習活動
1 (本時)	自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切なサービスの選択について考えることができる。	・買い物シミュレーションを通し、商品購入のポイントを考える。
2 (本時)	自らの商品選択の視点を増やし、自らの消費行動の課題を見つける。	・自らの商品選択の視点を増やし、今後の消費行動について自分なりの考えをもつ。
3	商品選択に必要な情報の種類を知り、表示やマークの意味を読み取る。	・商品を購入するときに、どんなことを考えるか、どんな情報がほしいかを考える。
4	いろいろな販売方法があることに気づく。	・販売方法と支払い方法の分類と特徴を整理し、まとめる。
5	消費者トラブルを回避する方法を理解する。 消費者を支えるしくみや機関があることを知る。	・資料から中学生に多い消費者トラブルの内容を知り、回避方法や対処方法を理解する。 ・クーリングオフ制度の内容を理解して、シミュレーションをする。 ・消費生活センターの役割を理解する。
6	消費者の権利と責任について理解する。	・消費者の8つの権利と5つの責任を理解し、具体的な事例を用いて、考える。
7	消費生活と環境との関わりについて関心をもつ。	・環境への影響を配慮した消費行動に関心を持ち、課題を設定する。
8	自分や家族の環境に配慮した消費生活について考え、現状を見直し、改善するための工夫をする。	・「環境に配慮した生活」についてまとめる。

(6) 授業展開

1) 授業展開(2時間)

太字は教材ツール

<p>○ 学 習 活 動</p> <p>・期待する生徒の様子やことば</p>	<p>指 導 上 の 留 意 点</p> <p>○教師の手立てや支援 ☆評価</p> <p>・発達支援の観点からの配慮事項</p>
<p>○自分の消費における選択の基準を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">①ワークシート(人数分コピー)</p>	<p>○黒板に資料を提示する。</p> <p style="text-align: right;">②弁当カード</p> <p>○自分と友人の意見に違いと共通点があることに気付かせる発問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファストフードを楽しんでいる？ ・おいしさの次には安全性？値段？ <p>○本時の流れを説明し、本時の目標を黒板に示す。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>食の選択から、よりよい現在と未来を考えよう。</p> <p>…私・社会・自然環境…消費者としての意識を高めよう！</p> </div>	
<p>○4つの昼食例から1つを選択し、理由とともに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味、値段、安全性など、自分にとっての価値判断で行っている。 <p>○班ごとに担当を決め、昼食例ごとに集まり、それぞれの選択がどんな社会をつくっていくのかをまとめていく。</p> <p style="text-align: center;">③キーワードカード生徒</p> <p style="text-align: center;">④考えようシート(各担当人数分コピー) ⑤情報カード生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心にして、私、社会、自然環境の3つの視点から食の選択の影響を考えていく。 <p>○班に戻り、お互いの学びを受け取り、相手に正確に伝え、ワークシートにまとめる。</p> <p>○まとめから、自分にとって良く、社会や自然環境への負担の少ない昼食の選択を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように自分の手元にくるのかを考えて選ぶ。 <p>○ワークシートへ記入をし、自分の意識の変容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択することが支援する一票になる。 ・安さだけではない商品選択の仕方があることを知る。 <p>○友人とワークシートの交換を行い、様々な考えを知り、学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の違いを意識し、考えを深める。 ・自分の発言や行動が社会に影響を与えることに気付く。 <p>○本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費が環境やよりよい社会の形成とつながっていることに気付く。 	<p>○自分の生活と「社会」「自然環境」とのつながりを考える8つのキーワードを示す。</p> <p style="text-align: right;">③キーワードカード教師</p> <p style="text-align: right;">⑤情報カード教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラス面とマイナス面と両方があることに気付かせる。 ・自分についての課題が社会、自然環境につながることに気付かせる。 ・比較、検討させることから社会の在り方を考えさせる。 <p>○よりよい現在と未来の考え方を示す。</p> <p>○私たちが日常的に行っている生活行動である「買い物」の基準を考えることで環境への負担を最小限に抑えながら、豊かな生活を楽しみ、公正な社会へとつなげることができることに気付かせる。</p> <p style="text-align: right;">⑥まとめ用フリップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりをもち、誰もが暮らしやすい社会を目指すことを提案する。 <p>☆消費が持つ影響力が理解できている。 (ワークシート)</p> <p>☆持続可能な消費の実践を目指している。 (ワークシート)</p> <p style="text-align: right;">⑥まとめ用フリップ</p> <p>○次時からの学習内容を説明する。</p>

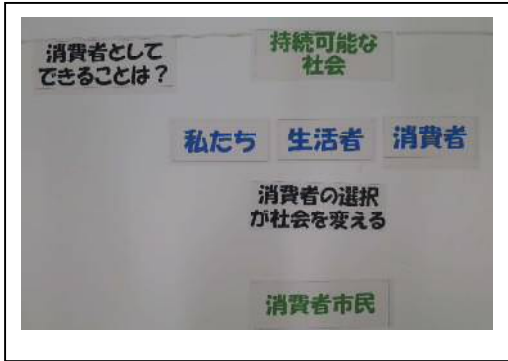
<p>15</p>	<p>○ワークシートに記名をする。 ・班員で声をかけあい取り組もうとする。</p> <p>○4つの昼食例から一つを選択し、理由とともにワークシートへ記入する。 ・味、値段、安全性など、自分にとっての価値判断で行っている。</p> <p>○班ごとに担当を決め、(座った場所ごとに機械的に行う) 昼食例ごとに集まり、それぞれの選択がどんな社会をつくっていくのかをまとめていく。</p> <p>○机の上にある昼食例ごとの考えようシートを使って話し合いを行う。参考にするものは、8つのキーワード、情報カード、学習書、浜松市発行資料である。</p> <p style="text-align: center;">③キーワードカード生徒 ④考えようシート(各担当人数分コピー) ⑤情報カード生徒</p> <p>・リーダーを中心に、3つの視点から食の選択の影響を考えていく。</p>	<p>○ワークシートを配布する。 ●本時はワークシートの左半分を今座っている班員4名で協力して完成させていきます。授業のねらいは、ワークシートに書いてある2つです。本時は4人がそれぞれの責任を果たし、たくさんの知識をまとめることができた班がねらいに示されたことを考えることができるようになります。お互いによろしくと伝え、集中してとりくみましょう。</p> <p>○場面設定を大型テレビに映し、伝える。 ●同じ班の4名でお昼ご飯を食べることになりました。テレビに示した4つの食事の中から選ぶことができます。あなただったらどれを選びますか？また、その理由も教えてください。</p> <p style="text-align: center;">②弁当カード</p> <p>○味・手軽さ・安全性・社会貢献・値段・様々な選択の理由があげられると思うが、現時点での生徒の価値観の表れになる。様々な理由を見て、同意できる点はクラス全体へ伝え、どの生徒も安心して記入できる。</p> <p>○生徒を全員黒板に向け集中させる。 ●今、選んだ昼食の選択肢についてです。食は自分の体と心を作ると学んできました。この学びに加えて、自分の選択が社会や自然環境に与える影響を知り、今後の自分の選択の在り方を考えてもらいたいと思います。考える時に使うキーワード8つを紹介します。</p> <p style="text-align: center;">⑥キーワードカード教師</p> <p>○自分の生活と「社会」「自然環境」とのつながりを考える8つのキーワードを黒板に示しながら説明をする。</p> <p>●今から班員4人が4つの昼食例に分かれてそれぞれの選択がどんな社会と環境を作っていくのかをまとめてもらいます。リーダーが一番背が高い人です。話し合いをまとめてください。話し合いは15分間です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラス面とマイナス面と両方があることに気づかせる。 ・自分についての課題が社会、自然環境につながることに気づかせる。 ・比較、検討させることから社会の在り方を考えさせる。 <p>○生徒の発言の内容を拾って、良さに気づくように問いかけたり、他の子の意見と結び付けたりすることで良い交流ができるように支援する。お互いを認め合い、共に社会参画していく素地を作ることが今回の授業の目的のため、話し合いを通じて親近感を高め、相互理解をし、良い関係を作るこ</p>
-----------	---	--

30	考える時間	<p>○班に戻り、お互いの学びを受け取り、相手に正確に伝え、ワークシートにまとめる。</p> <p>○リーダーが中心となり、よりよい暮らし（私・社会・自然環境の3つの視点から考えてOKなもの）のためにあったらいいものを考える。</p>	<p>とは大切なことである。</p> <p>○ジグソー学習を通じて、班員4人がそれぞれに知識や考えを持ち寄り、グループで一つの考えにまとめていく作業を行う。班員によっては内容に過不足が生じてしまい、この後の創意工夫を考える際に不利になってしまう場合もある。全体を見て必要な内容は、机間支援をして欲しい。基準となる内容については資料にあるので参考にして欲しいことを伝える。</p>
45	考える時間を共有する時間		<p>●班に戻ってください。</p> <p>Aグループから順番に各昼食例の私・社会・自然環境に対するプラス面・マイナス面を発表しましょう。聞いて学んだことをワークシートにまとめていきましょう。1つの昼食例につき2分間の発表時間です。</p> <p>まずは、自分の担当した昼食例をワークシートにまとめてみましょう。それではAグループから順番に発表をしてもらいます。お願いします。</p> <p>●4つの昼食例と社会・自然環境とのつながりについての発表が終わりました。自分のお昼ご飯の選択が社会や自然環境をつくっていくことに気づいたのではないかと思います。さらに、もっと違う選択肢が欲しいといった声も挙がっています。それでは、浜松にどんなものがあったり、どんなものが増えると暮らしが良くなるのでしょうか？4人で考えてみましょう。</p> <p>●ここで本時の授業は終了です。来週、今回のまとめから浜松のよりよい現在と未来を考えていきます。浜松のよりよい現在と未来を作るのはみなさんだけでなく、住民すべてが担い手になります。今日の学習内容を家族に伝えて、家族からもよりよい浜松への提案を聞いてきてください。それは、ワークシートの3に赤ペンを使って記入してください。</p>
50		○ワークシートを準備する。	<p>☆評価：行動観察＜関心・意欲＞</p> <p>☆評価：ワークシート 2 ＜技能＞</p>

<p>0</p>	<p>○保護者のコメントを班員に伝える。 ○教員が紹介したコメントや浜松への期待をワークシートにメモする。</p> <p>○教員の説明を聞く。</p> <p>○リーダーを中心にして「浜松にどんなものがある、どんなものが増えると暮らしが良くなるのか」をテーマにもう一度、話し合い、ワークシート 3をまとめる。</p>	<p>●今日の授業で、よりよい現在と未来を作るための選択について考えていきます。まずは、先週の内容の復習を行いましょう。各班でリーダーを中心にどんな内容が出て、どんなことを今後の浜松に期待しているのかをまとめました。保護者の方からのコメントも赤ペンで入っていますね。どんな内容なのかお互いに紹介し合ひましょう。</p> <p>○社会へ参画する能力を育成するための発問をする。考える視点として、みんなが暮らす浜松をよりよくしていくことを挙げている。環境への影響や安全性、フェアトレードなど生産者の生活を守ることなど多くの視点をもった生徒がどんな提案をし、社会環境を変えていこうとしているのかを見る箇所である。また、自分とは違う立場である保護者からの意見から考えることも多い。中学生としてできることだけでなく、行政や店舗へお願いしたいことなどもでてくると考えられる。考えが広がり、深まる箇所である。</p> <p>○机間指導を行い、様々なコメントやこれからの浜松への期待を紹介する。</p> <p>○自分の意見や考えを書き、グループの意見を聞き、保護者の視点も取り入れ、新たな疑問や考えをもつことにつながる箇所である。いい意見が机間支援を通じてクラス全体へ伝えて欲しい。</p>
<p>10</p>	<p>○教員の説明を聞く。</p> <div data-bbox="263 1288 774 1635" data-label="Diagram"> <p>The diagram illustrates the relationship between '私' (I) and various social and environmental factors. At the top, '私' is connected to '社会' (Society), '自然環境' (Natural Environment), and '世界の人々' (World). Below '私' is '家族' (Family). '世界の人々' is connected to '日本の人々' (Japan) and '浜松の人々' (Hamamatsu). '日本の人々' is connected to '地域の人々' (Local Area). '浜松の人々' is connected to '地域の人々'. The diagram is titled 'よりよい浜松 持続可能な社会 公正な社会' (Better Hamamatsu Sustainable Society Fair Society) and 'より良い現在と未来' (Better Present and Future).</p> </div> <p>→参考：プラン A (P.27)</p>	<p>○生徒を全員黒板に向け集中させる。</p> <p>○よりよい現在と未来の考え方を示す。</p> <p>●今、みなさんが紹介し合った、よりよい生活のために今後の浜松に期待すること「浜松にあったらいいな」「浜松がこうなったらいいな」は、「よりよい現在と未来」を考えることです。その際に「私」だけでなく、「社会」「自然環境」とのつながりをも考えました。今まで家庭科の授業において、「健康に暮らす」「幸せに暮らす」「文化を楽しみながら暮らす」ために必要な衣食住の知識や技術を学んできました。この「自分」にとってのよりよい生活は「家族」の生活、「地域の人々」、「浜松の人々」、「日本の人々」、「世界の人々」へとつながり自分の生活へと戻ってきます。自分の生活が支えられ、自分も支えています。自然環境とともに生活も循環しています。「正しい社会」を求め、「持続可能な社会を形成」する消費を考えることが「消費者としての自分」が取り組むべきこととなります。</p>
<p>15</p>	<p>○まとめから、自分にとって良く、社会や自然環境への負担が少ない昼食の選択を考える。</p> <p>・どのように自分の手元に届くのかを考えて選ぶ。</p>	<p>⑥まとめ用フリップ</p> <p>●では、最初の課題に戻ってみましょう。どんな昼食が自分にとっても・社会・自然環境にとってもいいのでしょうか？板書してある4つの選択肢に条件を加えてもらってもかまいません。理由も具体的に答えてください。最初は・・・という箇所には先週の授業時の判断基準を記入し、</p>
<p>25</p>	<p>○ワークシートへ記入をし、自分の意識の変容を振り返る。</p>	<p>理由も具体的に答えてください。最初は・・・という箇所には先週の授業時の判断基準を記入し、</p>

考
え
る
時
間

考
え
を
共
有
す
る
時
間

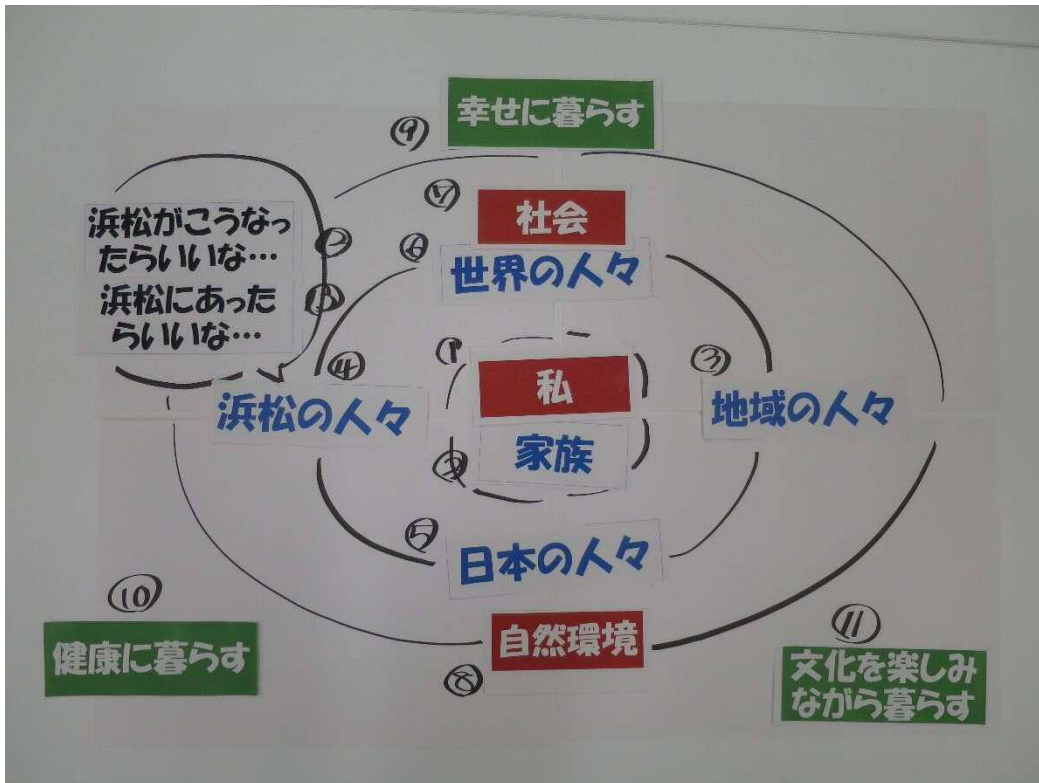
<p>35</p>	<p>考える時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択することが支援する一票になる。 ・安さだけではない商品選択の仕方があることを知る。 <p>○友人とワークシートの交換を行い、様々な考えを知り、学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の違いを意識し、考えを深める。 ・自分の発言や行動が社会に影響を与えることに気づく。 	<p>最終的には・・・の箇所には勉強を終えた今、考えたことを具体的に記入してください。10分間とります。浜松の未来をつくるみなさんです。真剣に考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の判断基準が広がってきたことに気づいたのではないのでしょうか。私たちが日常的に行っている生活行動である「買い物」の基準を考えることが、環境への負担を最小限に抑えながら、豊かな生活を楽しみ、公正な社会の実現へとつなげることができます。 ●もう一つ、よりよい浜松や社会をつくる上で欠かせないことがあります。人とともに行動することです。自分の考えをもち、人の考えを知り、人に自分の思いを伝えて一緒に行動していく力が求められます。これが社会に参画していく力です。みなさんはまず、今、できあがった自分の考えをもって、友人3人にコメントをもらってください。一人の子には3つの視点がOKかどうかの判断もしてもらいましょう。では、ワークシートをもって、これから一緒によりよい浜松をつくる仲間として自分の考えを伝え、相手の考えを知り、お互いに良いところや取り組んでいきたいことをメモしていきましょう。色ペンを使って分かりやすくして伝えましょう。 <p>・思いやりをもち、誰もが暮らしやすい社会を目指すことを提案する。</p>
<p>40</p>	<p>○席に戻る。 教員の説明を聞く。</p>  <p>→参考：プラン B (P.27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の振り返りを行います。 ボードを見てください。 2時間の授業を使い、皆さんには選択の重要性を理解してもらいました。なぜ、このように選択が大切かという、これからの社会を創っていく皆さんの選択が現在の「大量生産・大量廃棄・使い捨て文化」の社会から「持続可能な社会」へと変えていかなければならないからです。10年後・20年後の社会を作るみなさんだからこそ必要な考え方です。これが「消費者市民」としての考え方です。 家庭科のテーマとしてきた「人々の健康を支える」「未来を人とともにつくる」「生活の質を高める」「人々に喜びを与える」の4つを心がけよりよい浜松・社会を創っていく力となることができるようこの後6時間かけて「お金での投票」「情報の読

参考) 板書プランバリエーション

プランA (P.24)



プランB (P.25)



3) ワークシート例

食の選択からよりよい現在と未来を考えよう！

授業のねらい

- ・自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切なサービスの選択について考えることができる。
- ・持続可能な社会の必要性に気づき、環境に配慮した生活を考えることができる。
- ・よりよい社会の形成にむけて自ら発信し、社会へ参画することについて考えることができる。

1 4つの選択肢から、みんなで楽しみたい昼食を選びましょう。

A ファストフード	B コンビニ弁当	C 地元の食材を使った 弁当	D フェアトレード カフェの弁当
(選択の理由)			

2 食の選択についてまとめましょう。

	私		社会		自然環境	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
A ファストフード						
B コンビニ弁当						
C 地元の食材を 使った弁当						
D フェアトレード カフェの弁当						

()年()組()番 氏名()

3 浜松にどんなものがあり、どんなものが増えると暮らしがよくなるのでしょうか？

--

4 どんな昼食を選ぶことが、私・社会・自然環境にとってよいのでしょうか？

昼食例

--

(理由)

最初は・・・

最終的には・・・

友人から	友人から	3つの視点 OK?
------	------	-----------

5 授業の振り返り

1 集中して話を聞き、考えることができましたか？	A	B	C
2 自分に社会を変える力があると感じましたか？	A	B	C
3 消費者としてよりよいもの(私・社会)を選ぶ力がつきましたか？	A	B	C
4 持続可能な社会の実現において、環境への配慮ができますか？	A	B	C
5 地域の産業や文化を守る選択を心がけますか？	A	B	C

6 今日の授業の感想・反省

--

7 今後の「身近な消費生活と環境」の学習において

--

食の選択からよりよい現在と未来を考えよう！

授業のねらい

- 1 自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切なサービスの選択について考えることができる。
- 2 持続可能な社会の必要性に気づき、環境に配慮した生活を考えることができる。
- 3 よりよい社会の形成に向けて自ら発信し、社会へ参画することについて考えることができる。

1 4つの選択肢から、みんなで楽しみたい昼食を選びましょう。

A ファストフード	B コンビニ弁当	C 地元の食材を使った弁当	D フェアトレードカフェの弁当
(選択の理由)			
※味・手軽さ・安全性・社会貢献・値段・様々な選択の理由が挙げられると思いますが、現時点での生徒の価値観の表れになります。			

2 食の選択についてまとめましょう。

	私		社会		自然環境	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
A ファストフード	いつでもどこでも同じ味 手軽 待たなくていい 居心地がいい	カロリーが高い 添加物への不安がある	選択肢が増える みんなが気軽に集まれる	日本の食文化が消えていってしまうのでは？ 低賃金・重労働・不安定な雇用で安さが作られているのかも？		ゴミが出る。 輸送エネルギーがかかっている。
B コンビニ弁当	いつでも同じ味 手軽 いつでも買える 新メニューが豊富 すぐに見える	野菜が少ないかな？ 油が多く使われているかな？	いつでも買える 一人暮らしや忙しい人に便利	地域の食文化が消えていってしまうのでは？ 24時間営業では働く環境としては？ 地元の食材を使っていない 地域のもものが売れなくなる		ゴミが出る。 売れ残りの弁当がゴミになる。 容器のゴミが増える。 24時間営業による電気使用が多い。
C 地元の食材を使った弁当	時期によって食材や味が変わる 手軽 地元の食材だから安心して食べることができる	値段が高い	地産地消を心がけているため地元の生産者を応援している。 障害者の雇用が増える。		地産地消を心がけているため輸送エネルギーなどがかからない。	ゴミが出る。
D フェアトレードカフェの弁当	時期によって食材や味が変わる 手軽 有機栽培の食材だから安心して食べることができる。	分量が少なく、 値段が高い。 近くにない。	農薬による健康被害が少ない。 スリランカのコショウ農家の生活を支えることができる。		オーガニックを選ぶことで、環境に負荷をかけない生産技術を発展させることができる。	ゴミが出る

(北星中学校での実践で出てきた内容です。
1・2年生での学習内容や食育、総合的な学習の時間での取り組みによって内容が深まると思います。

3 浜松にどんなものがあり、どんなものか

社会へ参画する能力を育成するための発問です。考える視点として、みんなが暮らす浜松をよりよくしていくことを挙げています。環境への影響や安全性、フェアトレードなど生産者の生活を守るなど多くの視点をもった生徒がどんな提案をし、社会環境を変えていこうとしているのかを見る箇所です。また、自分とは違う立場である保護者からの意見から考えることも多いです。中学生としてできることだけでなく、行政や店舗へお願いしたいことなども出てくると思います。考えが広がり、深まる箇所です。

- 例) 身近なコンビニやスーパーなどで環境や健康に良い商品を扱うお店を増やす。
 地元の人が作った食材を扱い、地元の様々な人を雇用する店を増やす。
 フェアトレードカフェを増やす。
 有機JASの野菜などを扱うお店を増やす。

4 どんな昼食を選ぶことが、私・社会・自然環境にとってよいのでしょうか？

昼食例

生徒に一つの価値観を植え付けるのではなく、生徒自ら情報を得る手段を学び、考え、自分で判断し実践する能力を養うことが目的であり、4つの選択肢から選ぶだけでなく、そこに条件を加えてもいいことにします。

- 例) 地産地消を意識し、有機JASを扱ったもの 等C/Dをあわせたものが多く示されていました。

(理由) ※生徒の考えの変化がわかる箇所です。

最初は・・・

食品を選ぶことや買い物をすることは、自分の価値観を表しており、その選択（買い方）によって安全であり、環境への配慮がされたものが提供される社会になることが書かれていることが大切。

最終的には・・・

友人から

友人から

3つの視点 OK?

共によりよい浜松・よりよい社会を創っていく仲間としてのコメントが書かれています。
自分だけでなく、環境のこと、未来のことを考えています。

5 授業の振り返り

1 集中して話を聞き、考えることができましたか？	A	B	C
2 自分に社会を変える力があると感じましたか？	A	B	C
3 消費者としてよりよいもの(私・社会)を選ぶ力がつきましたか？	A	B	C
4 持続可能な社会の実現において、環境への配慮ができますか？	A	B	C
5 地域の産業や文化を守る選択を心がけますか？	A	B	C

6 今日の授業の感想・反省

ジグソー学習を通じて、友人との親近感の深まりを感じると思います。そのことで、新たに気づいた友人の良さや人とともに考えることの楽しさなどが記述されていることが望ましい。

7 今後の「身近な消費生活と環境」の学習において

自分自身が社会をつくっていくのだという意識がみられるのか。

よりよい社会づくりに参画するために、今後、学ぶ知識や技術を意欲的にとらえているか。

参考) 生徒が書いたワークシート

消費者としての意識を高めよう！食の選択からよりよい現在と未来を考えよう！

授業のねらい
 ・自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切なサービスの選択について考えることができる。
 ・持続可能な社会の必要性に気づき、環境に配慮した生活を考えることができる。

1 4つの選択肢から、みんなまで食べたい昼食を選びましょう。

(A) ファストフード	B コンビニ弁当	C 地元でとれた食材の弁当	D フェアトレードカフェの弁当
-------------	----------	---------------	-----------------

(選択の理由)
早くてその場で食べられるから

2 食の選択について・・・知識を身につけよう！・・・

	自分		社会		自然環境	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
A ファストフード	近くにたくさんある。おいしい。注文から早く届く。	脂肪分が多い。塩辛い。世界共通の味。	輸出品の輸入品が多い。地産地消が少ない。輸送コストがかかる。	輸入品が多い。地産地消が少ない。輸送コストがかかる。	近くにある。注文から早く届く。	輸入品が多い。地産地消が少ない。輸送コストがかかる。
B コンビニ弁当	近く便利。いつでも買える。お弁当の味。	高カロリー。塩辛い。	コンビニ弁当の普及。お弁当の味。	コンビニ弁当の普及。お弁当の味。	近く便利。いつでも買える。お弁当の味。	高カロリー。塩辛い。
C 地元でとれた食材の弁当	地元産の食材が食べられる。種類が豊富。	ファストフードに比べて高カロリー。	地元産の食材が食べられる。種類が豊富。	地元産の食材が食べられる。種類が豊富。	地元産の食材が食べられる。種類が豊富。	高カロリー。塩辛い。
D フェアトレードカフェの弁当	健康的。量が多い。値段が高い。	健康的。量が多い。値段が高い。	健康的。量が多い。値段が高い。	健康的。量が多い。値段が高い。	健康的。量が多い。値段が高い。	健康的。量が多い。値段が高い。

3 浜松にどんなものがあったり、どんなものが増えたと喜んだりがよくなるでしょうか？
フェアトレードのソーダが増えたと良い

4 どんな昼食が、自分にとっても、社会・自然環境にとってのいいのでしょうか？
昼食例
地元でとれた食材の弁当

(理由) 自分・社会・自然環境
最初は・・・早くてその場で食べられるファストフードだったけど
最終的には・・・農薬を使わずそれに障がい者と雇用している地元産の旬の食材を使っている地元でとれた食材の弁当

友人から
地元産の食材がおいしい。健康に良いから。
友人から
地元産の食材がおいしい。健康に良いから。
3つの視点 OK?
自分のことだけじゃなく周りのことも考えられるようにしたい。

5 授業の振り返り

1 集中して話を聞き、考えることができましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
2 自分に社会を変える力があると感じましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
3 消費者として良いもの(自分・社会)を選ぶ力がつきましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
4 持続可能な社会の実現に向けて、環境への配慮ができましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
5 地域の産業や文化を守る選択を心がけますか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C

6 今日の授業の感想・反省
授業を通して自分のことだけでなく地元産のことも考えることができた。自分も地元産の食材を選ぶことができた。

7 今後の「身近な消費生活と環境」の学習に向けて
生活行動に必要はものは無償にほしいから良い選択をしていきたい。消費者の選択が社会がよくなるようにしたい。

消費者としての意識を高めよう！食の選択からよりよい現在と未来を考えよう！

授業のねらい
 ・自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切なサービスの選択について考えることができる。
 ・持続可能な社会の必要性に気づき、環境に配慮した生活を考えることができる。

1 4つの選択肢から、みんなまで食べたい昼食を選びましょう。

A ファストフード	B コンビニ弁当	C 地元でとれた食材の弁当	D フェアトレードカフェの弁当
-----------	----------	---------------	-----------------

(選択の理由)
家の近くにもあるし、地産地消になるから。

2 食の選択について・・・知識を身につけよう！・・・

	自分		社会		自然環境	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
A ファストフード	安い。好きなものを食べられる。	脂肪分が多い。塩辛い。	好きなものを食べられる。安い。	脂肪分が多い。塩辛い。	好きなものを食べられる。安い。	脂肪分が多い。塩辛い。
B コンビニ弁当	おいしい。24時間食べられる。	健康に悪い。	おいしい。24時間食べられる。	健康に悪い。	おいしい。24時間食べられる。	健康に悪い。
C 地元でとれた食材の弁当	安心して食べられる。	自分も料理を学ぶことになる。	安心して食べられる。	自分も料理を学ぶことになる。	安心して食べられる。	自分も料理を学ぶことになる。
D フェアトレードカフェの弁当	栄養バランスがいい。	量が少ない。値段が高い。	栄養バランスがいい。	量が少ない。値段が高い。	栄養バランスがいい。	量が少ない。値段が高い。

3 浜松にどんなものがあったり、どんなものが増えたと喜んだりがよくなるでしょうか？
地元産の食材を使ったお弁当。フェアトレードのソーダが増えたと良い。

4 どんな昼食が、自分にとっても、社会・自然環境にとってのいいのでしょうか？
昼食例
地産地消の旬の食材を使ったお弁当。フェアトレードの食材も入っている。地元産の食材がおいしい。健康に良いから。

(理由) 自分・社会・自然環境
最初は・・・値段を考慮して食べたけど
最終的には・・・環境や社会のことを考えるようにする

友人から
地元産の食材がおいしい。健康に良いから。
友人から
地元産の食材がおいしい。健康に良いから。
3つの視点 OK?
自分のことだけじゃなく周りのことも考えられるようにしたい。

5 授業の振り返り

1 集中して話を聞き、考えることができましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
2 自分に社会を変える力があると感じましたか？	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
3 消費者として良いもの(自分・社会)を選ぶ力がつきましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
4 持続可能な社会の実現に向けて、環境への配慮ができましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
5 地域の産業や文化を守る選択を心がけますか？	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C

6 今日の授業の感想・反省
消費者として、自分だけでなく、社会や環境のことを考えて買い物をしていこうと思う。お金の投票だけでなく、環境や社会のことを考えて投票をするように行動していきたい。

7 今後の「身近な消費生活と環境」の学習に向けて
私も、今日学んだことをこれからいかに生かせるようにしていきたい。環境や社会のことを考えるようにしていきたい。

消費者としての意識を高めよう！食の選択からよりよい現在と未来を考えよう！

授業のねらい

- ・自分や家族の消費生活が環境や社会に与える影響について理解し、適切なサービスの選択について考えることができる。
- ・持続可能な社会の必要性に気づき、環境に配慮した生活を考えることができる。

1 4つの選択肢から、みんなが食べたい昼食を選びましょう。

A ファストフード	B コンビニ弁当	<input checked="" type="radio"/> C 地元でとれた食材の弁当	D フェアトレードカフェの弁当
(選択の理由) 何の地元でとれた食材を使っているから。→おいしく感じられたから。			

2 食の選択について・・・知識を身につけよう！・・・

	自分		社会		自然環境	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
A ファストフード	値段が安く、手軽に食べられる。	健康に良くない。	大量生産である。	外国から食材を輸入している。		
B コンビニ弁当	種類が多い。	作られたから日持ちが長い。	コンビニの収入が上がる。	地域の食材が消費されにくい。	ファストフードに比べて、この量が少ない。	電気が毎日使われる。
C 地元でとれた食材の弁当	地元の生産者と直接取引できる。添加物がない。	パッケージではない。	輸送コストが削減される。お弁当とは異なる環境配慮。			
D フェアトレードカフェの弁当	パッケージに低カロリー。	値段が高額が少なくない。	地産地消になる。フェアトレードが小さい。	輸入量が少なくなる。	フェアトレードが買えない環境にない。	輸入時に材料代がかかる。プラスチック容器のため、回収が難しい。人数が多いと買えない。

3年(2)組(1)番 氏名()

3 浜松にどんなものがあったり、どんなものが増えたと喜んだりがよくなるのでしょうか？

フェアトレードカフェや天かすなどの自然環境や自分達の健康に良い商品を売っているお店。
アロエローションなどコンビニでもいろいろな工夫がされていて、さらに便利なお店。

4 どんな昼食が、自分にとっても、社会・自然環境にとってのいいのでしょうか？

昼食例 C, D
地元でとれた食材の弁当やフェアトレードカフェの弁当など自分だけでなく社会や自然環境へのプラスの面が多い昼食。
(理由) 自分・社会・自然環境
最初は・・・地元でとれた旬の食材はおいしくて地元の生産者を応援できてよかったからCにした。また、地産地消で自然環境も良いと思った。
最終的には・・・Cも良いけれどDも世界の人にとって良いので輸送コストも少し減らせてくれるからCとDが良いと思った。

友人から 地元でとれた食品を食することで自分が社会にとっても良い影響を及ぼす。	友人から 地元、フェアトレードの食品を食して、良い店が埋まるといいと思う。喜ぶ人が増える！	3つの視点 OK? 最初から考えているので、この地域に良いものを盛り込むのは難しいけれど、社会のためには頑張ります。 B(1)
--	--	--

5 授業の振り返り

1 集中して話を聞き、考えることができましたか？	(A)	B	C
2 自分に社会を変える力があると感じましたか？	(A)	B	C
3 消費者として良いもの(自分・社会)を選ぶ力がつきましたか？	(A)	B	C
4 持続可能な社会の実現に向けて、環境への配慮ができますか？	(A)	B	C
5 地域の産業や文化を守る選択を心がけますか？	(A)	B	C
6 今日の授業の感想・反省 私は消費者として良い商品を選ぶ責任があると感じました。今の社会にはたくさんの食品があるけれど、その中から自分だけでなく社会や自然環境のことも考えて選択するようにしていきたいと思っています。 また、消費者市民のことを考えずに安いものを買いがちです。			
7 今後の「身近な消費生活と環境」の学習に向けて 生活する上での消費することは当たり前だけれど、それをどうするかで循環型社会につなげることができるのかしっかりと考えたいです。 そして、生活に役立てています。			

(7) 評価

本時は生徒が自分の選択が引き起こす事象に気付き、それらを比較・検討しながら、自分や家族にとってだけでなく、社会にとって、環境にとって最も良い選択を考え続ける消費者となることが目的である。そのため、4つの観点について評価基準を設定した。

関心・意欲・態度	食の選択肢について関心をもち、進んで調べ考えを述べることができる。
創意・工夫	食の選択はどうあるべきか、消費者としてどのような選択ができるのか、どのような食の提供が望ましいのかを考えることができる。
技能	それぞれの食の選択における、社会的な影響、環境的な影響についてまとめることができる。
知識・理解	持続可能な消費行動の知識を身に付けることができる。

また、消費者教育体系イメージマップ（消費者庁）(P.6)の「消費者市民社会の構築」（中学生期）では、3つの基準が示されている。

消費者の行動が環境や経済に与える影響を考えよう。 消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を実践しよう。 身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考えよう。

消費生活に関する情報の収集と発信の技能を身に付け、消費生活情報の評価、選択の方法について学び、意思決定の大切さに気づく機会となっていたか、評価の工夫が必要である。

① 評価方法

授業中の行動観察による評価と授業後に教師が確認しながら評価を行うことのできるワークシートへの記入内容からの評価の2つを行う。

1時間目に2項目の評価、2時間目にワークシートから3項目の評価を行う。

② 評価内容

1時間目 ジグソー学習にて

評価項目	評価方法	評価内容
関心・意欲	行動観察	4つの昼食の選択肢が社会や環境に与える影響について関心をもち、公正な社会の実現や持続可能な社会の実現に配慮した選択を考えようとしている。

1時間目 ワークシート2

評価項目	評価方法	評価内容
技能	記入内容	4つの昼食の選択肢が社会や環境に与える影響について必要な情報を収集・整理しまとめることができる。

2 時間目 ワークシート 3

評価項目	評価方法	評価内容
知識・理解	記入内容	食の選択はどうあるべきか、消費者としてどのような選択ができるのか、どのような食の提供が理想的なのかを理解し、意見をまとめることができる。

2 時間目 ワークシート 4

評価項目	評価方法	評価内容
創意・工夫	記入内容	食の選択が社会や環境に与える影響について収集・整理した情報を活用して公正な社会の実現や持続可能な社会の実現に配慮した食の選択について考え、工夫している。

※ワークシートへの記入内容に関しては、ワークシート（記入例）を参考にしてください。

1 日時・場所 平成27年9月10日(木) 第4校時 被服室

2 単元名 地域で働く 曳馬野の先輩方の職場に学ぶ・職業体験

3 単元構想

(1) 単元目標

総合的な学習の時間は、教科の学習を基盤とし、地域の教育力を生かして、その学校独自の教育課題を設定し、生徒一人一人に生きる力を与えていくことである。このような理解の上で、本校では総合的な学習の時間を「曳馬野学習」と名付け、3年間を通して地域の人々との関わりをもった学習を組み、地域と学校との結びつきを確かなものとし、子供への地域からの教育力を最大限に生かす取り組みを行っている。

本単元に至るまでの流れは、1年次に「地域に学ぶ 曳馬野の伝統を受け継ぐ・三方原八景と北星ソーラン」において、自分が成長してきた地域の成り立ちや歴史を、地域の方々から学び、地域の施設や遺跡に向き学んでいる。ここで、自分の成長への支えが地域の人々によって行われてきたことや地域の人との出会いから、自分自身を大切に考え、学ぶことへの意欲を高めることができた。ここでの出会いがきっかけとなり、地域の方々を招いて4時間の刺し子製作講座が開かれ、個々での交流や学びがあり生徒の成長につながっている。これらの学習活動の上に、2年次「地域で働く 曳馬野の先輩方の職場に学ぶ・職業体験」を位置づけている。自分の成長を支えてくれた地域の方々との温かい交流の後に、本校卒業生である先輩から職業講話という形での出会いを企画し、その後に職場体験へとつなげている。これにより、より子供たちが実感を持って、働くことが「地域や地域の人」を支えることに気付いて欲しいという願いがある。

(2) 生徒の実態と構想

本校2年生は人にやさしく、仲間と協力し、指示されたことはしっかり行動する集団である。これから学校の中心となり、新しい学校を創っていく立場である2年生集団であり、教員からの指示を素直に受け、行動するだけでなく、今後は自ら考え動くことのできる行動力を身につけさせたい。このため、総合的な学習の時間においても、自ら考える機会を多く持つことが行動力を身につけることに有効だと考え、自らの考えをまとめ、友人に伝え、受け取り、さらに考えを再構築させる取り組みを行っている。職場体験活動においても、体験の前に職業講話を2回取り入れることで、生きて働くとはどういうことか、地域のために生きるとはどういうことかを考えることを重視している。

本学級は、男子生徒が17名、女子生徒が15名のクラスである。外国籍の生徒や、母親が外国籍の生徒も数名おり、文化的背景も様々である。クラスをスタートさせた当初、発言が少ないなど心配な面が見られたため、学活・道徳でも自分の意見をまとめ、友人にコメントをもらい、さらに自分もコメントをする等、交流活動を繰り返し行ってきた。現在では、規律を守り、自己を向上させる意欲が高いクラスとなってきた。

本学級は、総合的な学習の時間のテーマを「地域の食」とし、取り組んでいる。関連する家庭科の学習では「食と健康のつながり」「食と社会のつながり」「食と経済のつながり」を学んでいる。食の選び方で自らの体と心をコントロールできること、食の選び方によって世界の誰かを苦しめることも助けることもできること、食の選び方で、国や地域の経済だけでなく環境も変えていく力があることを学んでいる。また、消費者市民として、「お金を使うことは社会への投票行為である」という意識をもったところである。家庭科学習ではここまでとなるが、ここに総合的な学習の時間において、実際に地域の食を長年支えてこられたGT(ゲ

ストーリーチャー)の講話を入れることができた。実際に農産物を提供する仕事に従事してきている方と出会い、話を聞くことは、食物を大切に扱い、丁寧に調理する家庭科学習にもつながる。また、祖父母が行っている家庭菜園の価値を見直し、自ら食べ物を育てる生徒も見られ、GTの講話が、生徒の行動を変化させるきっかけとなっている。

7月22日(水)に行われた第一回講話から生徒が受け取ったものの多くは、GTの生き方や考え方、物事への真摯な向き合い方である。それぞれに感銘を受け、今までの自分とこれからの自分への振り返りを様々な視点から行っている。

これらの生徒の学びを共有化するため、本時において、グループごとに話し合いを持ち、ジグソー学習を取り入れる。さらに、GTからのアドバイスを受けながら、「より良く生きて働くとはどういうことか」「よりよい地域とするために生きるとはどういうことか」をテーマにプランニングを行うことで自分の考えをまとめ、今後の学習課題である職場体験学習での学びがより深いものとなるよう学習内容を充実させていきたい。

4 指導計画

		目標			
学期ごとの活動		学習方法	自分自身に関わること	他者や社会に関わること	
1	1	曳馬野の伝統を学ぶ1 ～北星ソーランを通して～		北星ソーランの踊りを覚えることができる。	クラスで協力して、ソーランの踊りを完成させることができる。
	2	曳馬野の伝統を学ぶ2 ～三方原八景～	三方原八景のフィールドワークの計画を立て実践できる。発表の仕方を考え実践できる。	三方原八景について調べ、地域の歴史への認識を深める。	チームで協力してフィールドワーク・追究・発表を実施できる。
	3	スキー体験活動と曳馬野学習のまとめ	三方原八景学習のフィールドワークや発表会を通して、地域と学校の伝統を学び愛着を持つことができる。		
2	1	曳馬野の今に学ぶ1～ 立志の誓い～		立志式で、自分の将来を考え、決意を持つことができる。	周囲の級友と協力して学年・学級の雰囲気高め、立志式を成功させることができる。
	2	曳馬野の今に学ぶ2～ 職業体験を通して～	履歴書作成 アポ取り 体験先決定 体験先事前訪問 職業講話 2回 職業講話・職場体験で学んだことを、発表の仕方を工夫して(ガイドブックにまとめ)発表できる。	職業講話・職場体験の準備・実施・振り返りをきちんと行うことができる。	体験先の大人の指導を受け、体験コースの級友と協力して職場体験をやり遂げることができる。
	3	古都学習と曳馬野学習のまとめ	立志式・職場体験を通して、地域の働く大人から生き方を学んで成長できる。		
3	1	曳馬野の未来を担う1 ～進路学習～	修学旅行で学んだことを効果的にまとめ発表できる。	進路を考え適切な体験入学先を選択し、体験できる。	進路選択を、保護者など周囲に人の願いも考慮に入れて考えることができる。
	2	曳馬野の未来を担う2 ～子育て体験・高校体験入学・進路講話を通して	体験入学・進路講話・子育て体験で学んだことをまとめ発表できる。	子育て体験で、親の愛情を感じ、自己肯定感と将来への希望を持つことができる。自分が納得する進路を考える希望先を選択できる。	進路選択と子育て体験を通して、社会への貢献の気持ちと将来への希望を持つことができる。
	3	曳馬野の未来を担う3 ～義務教育卒業を前に～	曳馬野学習(子育て体験・進路選択)を振り返り、今までの自分の歩みを自分史アルバムにまとめ、将来に希望を持つことができる。		

5 本時の指導

(1) 本時の目標

働くとはどういうことかを考え、働く人の思いや考え方を感じ取り、将来働く自分を見通すことで、その成果を今の生活につなげることができる。

(2) 学習過程

○ 学 習 活 動 ・期待する生徒の様子やことば	指 導 上 の 留 意 点 ○教師の手立てや支援 ☆評価 ・発達支援の観点からの配慮事項
○前回の講話を振り返る ○本時の流れを知り、見通しをたてる。	○三方原りんご園のビデオ映像を流し、G Tの仕事を確認させる。 ○前回の振り返りシートとお礼の手紙を配布し、講話を振り返らせる。 ○本時の課題と流れを説明する。
<p>よりよく生きて働くとはどういうこと？ よりよい地域にするために生きるとは？</p>	
○グループで前回の講話から学んだことをまとめる。 ・仕事は自分の利益のためではなく、人のために行うものである。 ・寄付を厭わない柘植さんになりたい。 ・野菜を作りたくなり、農業に魅力を感じている。 ・感謝の気持ちを忘れず生活したい。 ・仕事を続けるために勉強をつみ重ねていった。 ・フェアトレード ・消費者市民社会の構築 ・買い物はお金の投票である。 ○他のグループの学びを共有する。 ○よりよく生きて働くとはどういうことか。 よりよい地域にするために生きるとはどういうことか。この2点の課題に対して話し合い、グループでワークシートを完成していく。	○ワークシートを準備し、5つの視点を示すことで前回の学びが系統立つよう支援する。 ①柘植さんは何のために仕事を行っているのか ②自分も見習いたいこと ③今後の自分の将来の仕事に関して考えたこと ④「食」に関することで得た知識 ⑤柘植さんの話と家庭科学習のつながり ○家庭科で使用したワークシートを配布し、ヒントを与える。 ○ジグソー学習を取り入れ、お互いの考えや意見を受け取り、相手に正確に伝えるよう支援する。 ・戸惑っている生徒には、メモの取り方から助言をし、話し合いの支援を行う。 ○黒板にキーワードを示し、具体的な行動へのヒントを与える。 ○何が一番大切なのか？などの問いかけを行い比較検討させていく。 ○何が必要なのか？どう行動すればいいのか？などの視点を示し、話し合いを支援する。 ○具体的で現実的な行動を示すよう助言をする。

<p>○他のグループの考えを共有する。</p> <p>○他グループのワークシートへ、コメントを記入する。</p> <p>○GTのアドバイスを受ける</p> <p>○本時の振り返りをワークシートに行う。</p>	<p>○GTへ助言をもとめるよう促す。</p> <p>○他グループのワークシートへ感想と自分の考えを記入させることで、友人の考えを知り自分の考えを深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・コメントが書けない生徒には、自分の考えとの共通点を探し、書くよう助言を与える。 <p>○思考が深まるよう、落ち着いた雰囲気とし、黙って取り組ませる。</p> <p>☆働くということへの新たな視点や価値を見い出している。(ワークシート)</p>
--	--